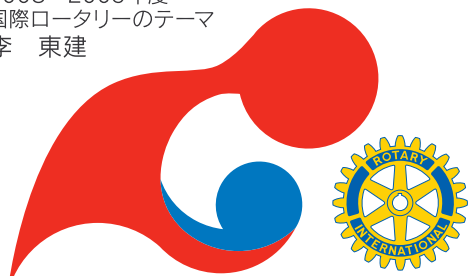


2008～2009年度
国際ロータリーのテーマ
李 東建



Make Dreams Real
夢をかたちに

会長／齋藤清藏 幹事／遠藤光一

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2008▶2009 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

出席と参加、親睦と奉仕の 意識を高め地域に奉仕

プログラム

●本日
「ロータリー財団月間にちなんで」
国際奉仕副委員長 田中公一 会員

会員誕生日
11月14日 串橋 伸幸

●次週予定
卓話「最近のITについて」
親睦活動委員長 河部 勲 会員

No. 2350

第18回 11月12日



前例会

会員総数……………45名
出免会員……………5名
出免出席……………2名
出席会員……………30名
出席率……………76.19%

前々会

第15回 10月22日

出席会員……………33名
メイクアップ……………5名
修正出席率……………82.50%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

✍️ 会長報告 ……………

- 10月26日(日)にロイトン札幌にて開催された、2008～2009年度地区大会に多くのクラブ会員に参加登録を頂き、大変ご苦労さまでした。
- 10月30日に第5回定例理事会を開催し、協議事項として ①9月末の決算承認。②12月プログラムの承認。③今後の予算運営について、意見交換を行い承認。また、報告事項として留萌産業会館の貸し館料の値上げについて報告がありました。

📬 幹事報告 ……………

- 1) 11月例会のお知らせを深川RC、妹背牛RC、砂川RCよりいただきました。

会報受領先

- ・深川RC No2421号～No2424号
- ・芦別RC No2498号～No2501号
- ・妹背牛RC No2010号～No2013号

📖 3分間情報 ……………

会員研修委員会 越野委員
「ロータリー米山記念奨学会」

日本で学ぶ外国人留学生を支援する、日本の全ロータリークラブによる多地区合同奉仕事業です。これまでに支援した奨学生は109カ国、1万3,902人にのぼり、日本の民間奨学財団では最大規模です。日本ロータリーの父、米山梅吉氏(1868-1946)の没後、彼の功績を偲ぶために何か有益な事業を、という声がロータリアンから上がりました。

「世界に平和日本を理解してもらう為には、まずアジア諸国の理解を得られなければならない。アジアから一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、互いに信頼関係を築くことこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」と、こうして東京RCで始められた「米山基金」が、全国ロータリークラブの合同事業として広がり、1967年7月、文部省(現文部科学省)から財団法人の許可を得るに至りました。2007年度は、財団設立40周年を迎える記念すべき年です。

米山奨学事業の特長は、世話クラブ・カウンセラー制度によって、奨学生一人ひとりが日本での留学生活において精神的支えを得て、かつロータリー活動に密着することが出来る点にあります。ロータリーが求める平和の精神を胸に刻んで巣立った元米山奨学生には、韓国駐日大使や、スリランカ警察庁長官、ネパールの女性職業訓練センター所長のほか、韓国・台湾でガバナーを務めた人もいます。元奨学生を中心に組織される米山学友会は海外を含めて29あり、災害時のボランティア活動やシンポジウムの開催など、社会に貢献する活躍をしています。

(ロータリージャパンより)



ニコニコBOX

- ・10月26日ロイトン札幌にて開催された年次大会にクラブ会員皆様の多数の参加ありがとうございました 寒くなってきましたので身体を大切に 齋藤会長
- ・本日例会にて卓話をさせていただきます 地区大会出席表彰を戴きました ニノ宮会員
- ・西谷英樹会員の英が間違っていました 優秀な方ですので秀としてしまいました

会報委員会

| | |
|-----|----------|
| 前 回 | 405,500円 |
| 今 回 | 6,000円 |
| 累 計 | 411,500円 |



プログラム

「地区大会報告」

ニノ宮会員

10月26日(日)朝6時出発の貸切バスにてホテル・ロイトン札幌で開催された地区大会に参加してきました。留萌クラブからは21人の参加でしたが、バスでの参加は10人ほどでした。バスの中で本日の報告者を抽選で決めましたが、不幸にも私と大沼さんが「あたり」を引き、本日発表となりました。

地区大会はR I会長代理としてフィリピンよりヴァンセンテ J. カロス氏の出席を得て開催されました。本日の記念講演はHBC日曜日の「サンデーモーニング」でお馴染みの日本総合研究所の会長 寺島実郎氏とプロスキーヤーの三浦雄一郎氏の2つの講演がありました。私は特に、寺島実郎氏の記念講演「これからの北海道が生き抜く道」について報告します。

日本は戦後の冷戦時代、その後のアメリカ一極時代を通してアメリカのみを見つめ「アメリカがくしゃみをすれば日本はカゼをひく」と言うほどアメリカ寄りであった。2001年の9.11同時多発テロ事件以来、アメリカは「アフガニスタン侵攻」「イラク戦争」に突入をして迷走を続けてきた。その結果、アメリカ一極から多極化そして世界は無極化の全員参加型秩序時代に突入した。

こんな中で日本は今までのアメリカ一辺倒ではなく、極東ロシアや中国を含めたアジアを中心にヨーロッパ等世界全体にもっと目を向けるべきである。そして次の「日本創生へのシナリオ」へ真剣に取り組む時であるとしている。

＝日本創生へのシナリオ

鍵を握るエンジニアリング＝

- *最大の着眼点は「21世紀の日本人は現在の生活レベルを落とさずどうやって飯を食うか」
- *例えば、年収500万円以上を得て若者が希望をもって働ける付加価値の高い仕事(JOB)の創出

①「エネルギーと食糧は海外から買う」という

産業の骨格の変更

- 食糧自給率を40%から10年以内に50%へ（長期的には70%へ）=蓄積してきた産業技術力の注入と生産法人などによるシステムとしての農業の発展
 - 化石燃料への過剰依存からの脱却=水力を含む再生可能なエネルギーの重視など
- ②「国土の狭い資源小国」という固定観念からの脱却
- 国土面積は世界61位(38万平方km)だが、領海排他的経済水域は6位(447万平方km)=海洋資源開発の推進:07年4月海洋基本法成立(内閣府に総合海洋政策本部設立)
 - 「海底熱水鉱床」の発見(現在11箇所)と存在する希少金属からエネルギーなど各種資源のポテンシャル=探査・採鉱技術の高度化
 - *特に有望な銅、鉛、亜鉛、金、銀、希少金属(コバルト、マンガンなど)
- ③「自動車以降のプロダクト・サイクルの創出」の必要性
- プラットフォーム型産業の中核としての宇宙航空産業の重要性=裾野に巨大なシナジー(新素材、ナノ、IT、バイオ、エンジン等)
 - アジア大移動時代を迎え撃つ「中型ジェット旅客機」の国産化プロジェクト
 - 宇宙開発プロジェクトの重要性(安全保障、技術シナジー)
- ④ソフト・文化産業、触媒産業の重要性
- ジャパン・クルールの潜在力
 - ソフトウェア開発の潜在力(例:エミレーツの500チャンネル機内サービス、北京五輪でのスポーツインストラクション実績)
 - 情報力の深化(例:アジア太平洋研究所構想の実現)
- ⑤国土形成戦略の展開(未来への意味ある投資としての選別的基盤インフラの整備)
- アジアゲートウェイとしての基盤強化(空港港湾、ネットワーク型道路)
 - 東京集中機能の分散(安全保障、防災に配慮した戦略的分散)

このような中で北海道は従来の「主体的に動かず流れにまかせる中央依存型、官依存型」から脱却し、極東アジアと国境を越えた連携の中で「食の自給率の向上」とアジア新時代を見据えた「中型ジェット時代」に対応する宇宙・航空機産業の中心にならなければならない。まさにこれからの北海道が生きていく道である。

寺島氏の話は今までも言われた事で新しい話ではありませんが、シッカリと理論付けをし、分かり易く、希望を抱ける話で大変参考になりました。

大沼会員

私自身室蘭で開催された大会以来の出席で、留萌クラブからは21名の登録でその内3名が欠席でした。今回の年次大会は札幌西クラブの手作りの大会という感じで、大会場は一文字の横幕に左右の垂れ幕程度の簡素な装飾、舞台には万国国旗等の飾りつけも無く、スッキリしたひな壇でした。昼食時のアトラクションもない、弁当のみ。私個人的にはあれで良いと思います。形式的な行事は出来るだけ省き、簡素に運営。過去のように登録さえすれば出席しなくても良い等の、こんな発想が無くなってきている感じが致しました。お祭り騒ぎのような賑やかさが無い。よく言えば簡素、一部には物足りないと感じる人もいるかもしれません。留萌RCのクリスマス例会の方が賑々しく感じられました。

まずRI会長代理の挨拶があり、RI会長代理はフィリピンのカルロス氏で、親日家であり何度も日本に来ているそうです。なかなか良い挨拶でした。

記念講演は2本で講演中留萌クラブの会員は少なく、二ノ宮さんと2人で同じ事を話すより講演の感想を2人で手分けして感想を述べると言う事で、二ノ宮会員と談話が成立しました。寺島実郎氏を二ノ宮会員、私は三浦雄一郎氏の私の夢世界最高齢でチョモランマに挑むの担当となりました。

最初の8分のビデオでチョモランマに挑むの話は終わり、8分間の中ですべてのチョモランマ登山のエッセンスが入っておりました。エベ

第17回 11月5日(水) 天候/晴

レストは統治していたのが英国でしたので英語であり、チョモランマはチベット語です。大方が健康法の話であり、特に99歳で亡くなられた実父の三浦敬三さんの話でした。

三浦雄一郎氏は昭和7年生まれの76歳、来年が喜寿です。70歳で息子とエベレスト登頂、昨年75歳で再度登頂。80歳でもう一度挑戦したいと話題になりました。実は、私が20歳の頃、山登りで立山山系剣山で三浦さんと逢っており、当時のプロスキーヤーは、今のように海外遠征がなく、夏は雪を求めて日本中の雪渓を探しまわり、剣山は豊富な雪が来ていたようです。その頃の三浦氏は35歳前後で、パンツ1枚でスキーに乗っておりました。1964年キロメートルランセ172キロの世界記録を樹立しております。1966年富士山滑降にて名を成し、冒険家としては35歳と大器晩成型でした。その後エベレスト・チョモランマ滑走、キリマンジャロなど各大陸の最高峰を滑走しております。その後60歳にて冒険活動を中止したそうです。65歳の健診で心臓病、糖尿病、肝臓、メタボ等あらゆる病名をつけられ、体力は80歳と言われ、一時期幼稚園の生徒が登る531mの藻岩山に登れなかったそうです。こんな事ではだめだと冒険家三浦を思い出し、一年発奮。エレベーターは使わず階段は上り下りし、足に錘をつけリュックに荷物を入れて歩くなどして手稲岳、恵庭岳を登り、半年後富士山登頂まで体力を回復させたそうです。目指すはエベレスト8000m、20歳の人が90歳の体力になるそうで、70歳の加齢の負荷があるそうです。特に登る時よりも下りに体力が必要になり、下山時に5人に1人が死ぬそうです。

ここから健康法の話に移り、下山時には片足に瞬間的に体重の倍以上の力が掛り、ゆっくり下山する事が身体能力を高めるのに有効で、体脂肪の消費にも良いそうです。登山、トレッキングはマラソンよりも運動効果があるそうです。父三浦敬三氏は99歳まで元気に生きたひとで、97歳でモンブランでスキーを楽しんでいたそうで、私もNHKのテレビで見た記憶があります。一人で生活し、自分で買い物をし、自分

で調理したそうです。健康法としては、①スペシャルドリンクで、牛乳、蜂蜜、ゴマ、黒糖、ヨーグルト+酢漬け卵をジョッキ一杯飲み。②鼻呼吸で、色々なバリエーションがあり、片鼻吸うで横隔膜の運動。③舌だしで、しわシミが無くなるそうです。これらの運動効果で97歳の時、脳年齢は40歳との事。

エベレストは商業登山が可能で、500~800万のお金と高度順化が出来れば登頂可能だそうで心臓の手術をしている三浦氏は、心電図を日本医大の主治医に衛星経由のインターネットで送信し、健康管理をしながら登頂のタイミングを選んだそうです。

日頃より三浦氏は「元気高齢者」と自負しており、長命志願にはきわめて興味のある対象人物であり、飽きずに聞いていました。人生60歳から面白い、今までの40年とこれからの40年の暇な時間が同じで、何をするか、楽しむ事が出来るか、病院のベッドで過ごす事になるのか深刻な問題だという事です。仕事を辞めた後、老後をどう快適に過ごすか？仕事を辞めてからでは遅く、現役の内に対応したほうが良いとのこと。健康管理さえシッカリしていたら三浦氏のような人生も可能と感じて聞いておりました。

特に留萌の医療過疎、市立病院もどうなる事かわからない。生きる事が可能であれば元気に生きたい。元気高齢者を自負する三浦氏らしい話を聞いて、私自身その願望を強くして帰って参りました。

